

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）
がん専門相談員の教育・研修プログラムの地域展開に向けた検討

研究代表者	高山 智子	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（部長）
研究分担者	近藤 まゆみ	北里大学病院 看護部（看護師長）
研究協力者	品田 雄市	東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター（医療ソーシャルワーカー）
研究協力者	萬谷 和広	大阪南医療センター 患者総合支援センター・がん相談支援センター （患者支援室長・がん相談支援室長補佐）
研究協力者	三木 晃子	香川大学医学部附属病院 がん相談支援センター（がん看護専門看護師）
研究協力者	岸田 さな江	獨協医科大学病院 地域連携・患者サポートセンター 入退院サポート部門退院サポート室がん相談支援センター （看護師長・がん看護専門看護師）
研究協力者	腰田 典也	公立那賀病院 がん相談支援センター（社会福祉科科长補佐）
研究協力者	小郷 祐子	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（研修専門員）
研究協力者	櫻井 雅代	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（看護師）
研究協力者	志賀 久美子	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（看護師）
研究協力者	堀抜 文香	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（特任研究員）
研究協力者	齋藤 弓子	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（特任研究員）
研究分担者	清水 奈緒美	神奈川県立がんセンター 看護局（副看護局長）
研究分担者	八巻 知香子	国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（室長）

研究要旨

これまでにがん対策情報センターにより、がん相談支援センターの相談員を対象に多くの研修が提供されている。本研究では、そのうちの1つ、指導者研修・継続研修「情報から始まるがん相談支援（「情報支援研修」とする）」を素材として、中央ではなく地域開催を行う際の課題や留意点について検討を行った。検討に際しては、この情報支援研修を3県合同でオンライン開催することを想定し、各3県の研修運営実施者または調整者とともに、地域展開に向けたプログラムの再構成や課題の抽出等を行った。その結果、現プログラムで提供されている2日間（約12時間）のプログラムを、各地域で異なる研修実施の建て付け（人数や実施主体等）でも対応可能なようにすること、限られた時間やマンパワーで研修の組み立てが可能なようにするため、地域展開用の研修プログラムでは、内容を簡素化するとともに、3つのモジュールとして提供できるように再構成することが検討結果として示された。

本研究班での検討により、情報支援研修を地域展開する上での課題が示され、その内容に準じてプログラムの内容や構成について再構築することができた。今後は、情報支援研修の3県合同オンライン開催に向けた準備を進め、実際に研修を開催した上での評価に基づき、情報支援研修の地域展開に向けた取り組みについて更なる検討を続ける必要があると考えられる。

A. 研究目的

がん対策情報センターでは、がん相談支援センターの相談員を対象に基礎研修・指導者研修・継続研修を提供している。それ以外にも、地域への講師派遣、がん情報サービスサポートセンターでの受け入れ研修、認定制度（NCC認定がん専門相談員）を行って

いる。

また、がん相談支援センターは院内や地域の情報拠点になっている一方で、情報が複雑化し、相談員が最新の情報を適切に捉えて支援に繋げることは困難であるという背景をふまえ、これまでに「情報から始まるがん相談支援」をテーマとした研修（以下、情報

支援研修とする)のプログラムを開発してきた。がんに関する情報量が増え、更新の早さも加速する中、相談員が信頼できる情報源に基づき相談対応することは、より一層重要性を増しているといえる。本年度は新型コロナウイルスの感染が拡大する状況下においても、情報支援研修をオンラインで開催し、研修を提供した。

本研究では、この情報支援研修を3県合同でオンライン開催することとし、今後の地域展開に向けたプログラムの再構成や課題の抽出等について検討したため、その結果について報告する。

B. 研究方法

本研究班のメンバーでの意見交換と打ち合わせ会議を2～3時間/回、1～2ヶ月おきに実施した。この打ち合わせ会議はオンラインで実施し、情報支援研修のプログラムの構成や内容の他、地域展開をする上での課題や対処方法について話し合いを重ねた。

R3年度は、情報支援研修を3県合同(栃木・和歌山・四国/4県含む)でオンライン開催することとし、開催方法についても検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は、患者さんの個人情報などを扱う内容ではなく、特記すべき事項なし。

C. 研究結果

<情報支援研修の地域展開に向けたプログラム>

情報支援研修は、講義と演習形式で構成される2日間の研修プログラムである。以下に示す①～⑥の講義の後に演習を通じて、情報支援における新たな知識やスキルの獲得を促すことを目的としている。

詳細については、資料参照のこと。

- ① がん専門相談員、がん相談支援センターにとっての情報支援とは
- ② 医療情報をどう評価し、何を判断するか
- ③ 診療ガイドラインの活用方法
- ④ がん情報支援センターでの情報整備
- ⑤ 情報支援におけるアセスメントのポイント
- ⑥ 情報支援における意志決定と行動

1. 研修プログラムのモジュール化について

地域展開へ向けたプログラムの検討の結果、上記の講義およびそれに伴う演習はモジュール化して提供することとした。

モジュール1：①②/情報の評価・見極め

モジュール2：③④/診療ガイドラインの活用

モジュール3：⑤⑥/情報支援アセスメント

※モジュール1,2はどちらから受講しても可、ただしモジュール1,2(1日目)→3(2日目)の順で受講できるよう開催する。

2. 事前課題および演習について

受講者へは事前課題としてワークシートを用いた自主学习をするよう依頼することとし、研修では講義後、演習でのグループディスカッションの内容を全体で共有する形式をとることとした。

また、グループディスカッションは要点を絞り、グループ学習が効果的な部分に特化することとした。

1) 研修1日目事前課題

Eラーニング講義視聴

- ・「診療・治療ガイドライン」「ガイドラインを活用した相談対応の例」等の講義を視聴する。
- ・HONCODEの観点を参考に、情報源の評価を行う
- ・患者向け診療ガイドラインを用いた事前課題

2) 研修2日目事前課題

- ・事例教材の音声を聞き、相談者の主訴・ニーズ・大切にしていることについて検討する。
- ・がん情報サービス「肺がん」に関するページを参照し、相談者の医学情報・状況を整理する
- ・患者向け診療ガイドラインを用いた事前課題

3. 運営方法について

情報支援研修を3県合同でオンライン開催するにあたっては、研究協力者(3名)が各県の調整役となり、都道府県担当者には受講者への連絡や確認等の事務手続きを行っていただく。また、国立がん研究センターからはサポートスタッフを派遣し、研修全体を取りまとめる講師は研究協力者(1名)が務め、講義部分は事前収録で対応することとした。演習でのグループディスカッションのファシリテーターは、司会・進行のみをその役割とし、各県から選出するよう依頼した。

<情報支援研修を地域展開する上での課題>

情報支援研修の地域展開に向け、主に以下の点について議論された。

- ・臨床現場の相談員にとっては、診療ガイドラインの活用はハードルが高いが、診療ガイドラインや患者向けガイドラインは一般にも公開されているため、相談者がそれらを読んだ上で相談に訪れることも想定される。そのため研修では、相談対

応における診療ガイドラインのより具体的な活用方法を示す必要がある。

例：診療ガイドラインのCQの内容について把握することや、推奨度だけでも確認する等
相談者が求める（知りたい）情報と医師をつなぐためのツールとして使用する等

- ・ 診療ガイドラインの使用方法について教示すると共に、常に情報をアップデートすることの重要性についても意識づけできるようにする。

例：MLで周知される診療ガイドラインのアップデート情報の活用方法を示す等

- ・ 診療ガイドライン活用について、本研修で達成すべき目標を定める必要がある。個々の相談員の相談対応力や職種によっても診療ガイドラインの活用方法には差が生じるであろうことを考慮しなければならない。
- ・ 出版されている診療ガイドラインや患者向けガイドラインを揃えることができない施設もある。研修の教材として演習でガイドラインを使用するにあたっては、受講者にとって支障がないよう配慮する必要がある。

以上より、今回の研修では患者向けガイドラインを活用できることを最低限の目標とし、インターネット上に公開されている「患者さんのための肺がんガイドブック」に基づき演習事例を作成することとした。

D. 考察

本研究班での検討により、情報支援研修を地域展開する上での課題が示され、その内容に準じてプログラムの内容や構成について再構築することができた。情報支援に関する研修の重要性が増す中、地域展開に向けた取り組みを開始できたことは評価できる。

今後は、情報支援研修の3県合同オンライン開催に向けた準備を進め、実際に研修を開催した上での評価に基づき、情報支援研修の地域展開に向けた取り組みについて更なる検討を続ける方針である。

E. 結論

情報支援研修を地域展開する上での課題が示され、その内容に準じてプログラムの内容や構成について再構築することができた。

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

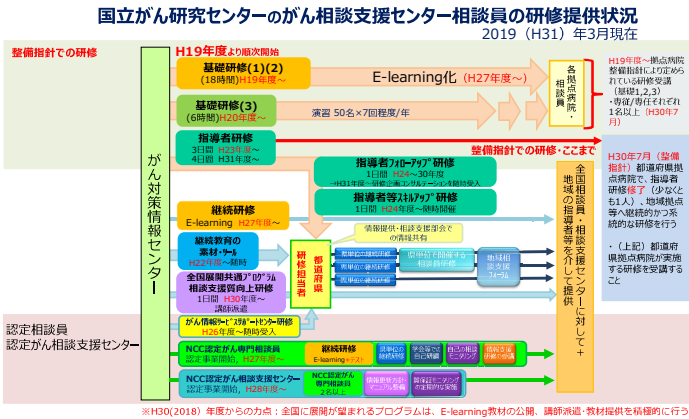
H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他 なし

がん患者の個々のニーズに応じた質の高い相談支援の提供に資する研究
(研究代表者：高山智子)

がん専門相談員の教育・研修プログラムの地域展開に向けた検討

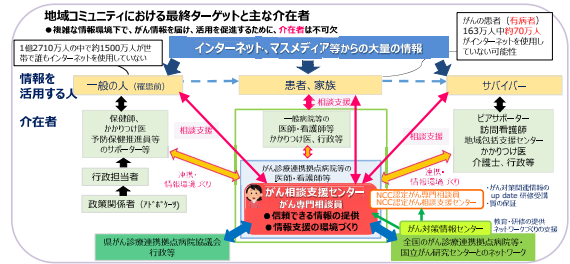
情報支援研修プログラム作成



がん専門相談員の研修

現行、そして今後は？

がん相談支援センターに求められる役割と立ち位置

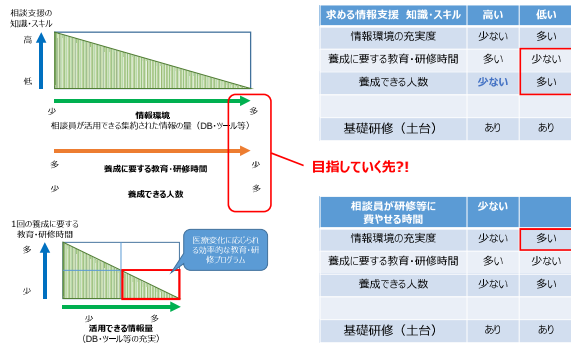


相談支援センターの整備 (2006年から) が始まって、ほぼ15年ほどが経過

→現在は、がん患者・家族をトータルに支援するための情報をもつ

- 拠点病院の中/地域の中の『がん情報拠点』として、機能しつつある?!
- スピードを増すが診療環境に呼応できるがん相談支援の体制、そのための研修の必要性

今後：がん相談支援センターの相談員の育成とそのためのプログラム像



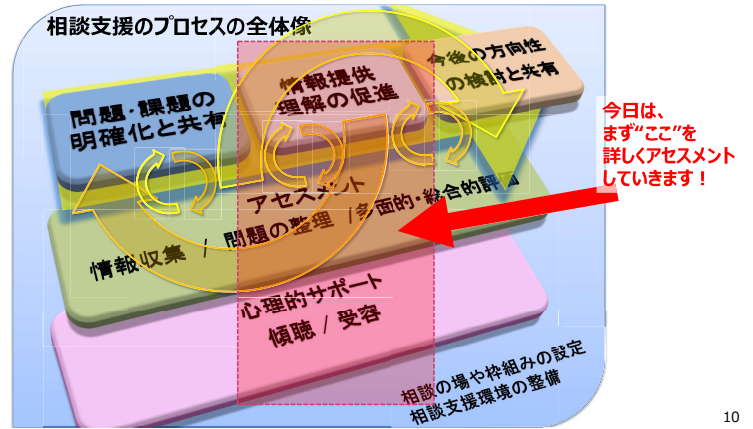
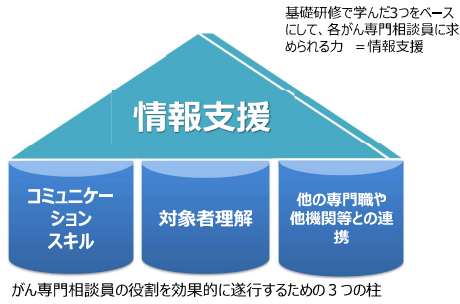
一つの研修素材事例として：

- 情報支援研修プログラム→モジュール化して地域展開へ
 - 講義部分は、E-learningで。事前 or Otimeで
 - 事前課題
 - 集合研修 (オンライン) は、グループ学習が効果的な部分に特化
 - 地域 (県or県合同) 主催による、NCC側から (外部含む) の講師派遣
- プログラム構成
 - モジュール1：情報の評価・見極め (2時間 + a)
 - モジュール2：診療ガイドラインの活用 (2時間 + a)
 - モジュール1, 2はどちらから行っても可、ただしモジュール (1, 2) →3で実施
 - モジュール1+2同日開催 (5時間)
 - モジュール3：情報支援アセスメント (4時間 + a)
- 演習部分の展開 (実施方法)
 - ワークシートを用いた自主学習→グループディスカッション→共有形式
 - ファシリテーターは、司会・進行できればよい

都道府県 (開催県側) の準備は？

- 複数県合同開催 (3-4県) で手あげ、準備が促進されるためには？
- 開催に向けた準備内容は？
 - オンライン接続機器・場所等
- 研修素材を組み合わせた提供/講師対応に向けた準備は？

がん専門相談員が信頼できる情報を扱い、支援するために



がん専門相談員が目指す「情報支援」とは？

がん専門相談員に求められる力

1. 手元に情報がないときに信頼できる医療情報を探し出す力をつける
2. 基本的な医療情報（診療ガイドラインなど）を活用する力をつける
3. 相談者に合わせて情報を伝える力をつける
4. 相談者が情報を得て活用し、行動することを支援する力をつける

がん専門相談員の使命 果たすべき役割

がん患者や家族等の相談者に、科学的根拠とがん専門相談員の実践に基づき信頼できる情報提供を行うことによって、その人らしい生活や治療選択ができるように支援する

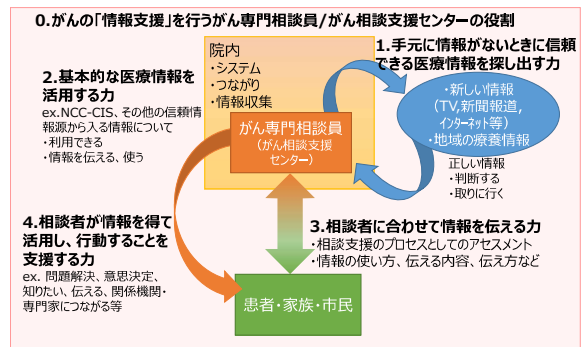
専門性を活かした情報支援で、主に扱う情報は？

- 病気・治療に関する情報
- ストレス要因に関する情報
- 社会福祉制度をはじめとするフォーマルな資源の情報
- 症状でマネジメント/セルフケアに関する情報
- 対処法（コーピング）に関する情報
- 近隣・地域社会などインフォーマルな資源の情報
- 予測される身体上の課題解決に必要なと考えられるマネジメント方法・サポートの得方に関する情報
- 予測される精神・心理上の課題解決に必要なと考えられるマネジメント方法・サポートの得方に関する情報
- 予測される療養生活・社会生活上の課題解決に必要なと考えられる社会資源の情報

着眼点：人の解剖・生理 **着眼点：その人の心の状態** **着眼点：その人の社会資源**

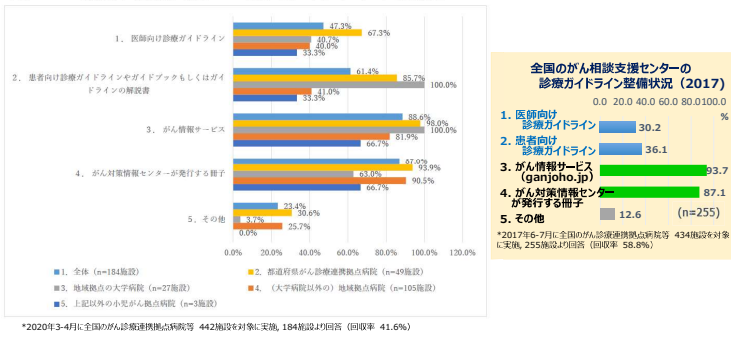
がん専門相談員の専門性は「情報支援」

～情報から始まる相談支援～



3. 全国のがん相談支援センターの診療ガイドライン整備状況 (2020)

5) 貴センターで情報提供・相談支援に活用している資料は以下のうちどれですか。(複数回答)



時間	ルーム	1日目プログラム (予定)
10:30 (10分)	メイン	オリエンテーション
10:40 (20分)	メイン	講義1 「がん専門相談員、がん相談支援センターにとっての情報支援とは？」
11:00 (25分)	グループ	自己紹介とアイスブレイク
11:25 (10分)	グループ	休憩
11:35 (30分)	メイン	講義2 「医療情報をどう評価するか 何をどう判断しますか？」
12:05 (55分)	メイン/グループ	演習① 演習前・オリエンテーション 情報(源)を評価してみましょう
13:00 (60分)	グループ	昼休み
14:00 (30分)	メイン	講義3 「～復習～診療・治療ガイドライン」 「診療・治療ガイドラインの活用例」
14:30 (50分)	グループ	演習② 診療ガイドラインの情報を使ってみましょう
15:20 (10分)	グループ	休憩
15:30 (10分)	メイン	演習②の全体共有
15:40 (20分)	メイン	講義4 「がん相談支援センターでの情報整備」
16:00 (20分)	グループ	演習③ 自施設の情報整備について話してみましょう
16:20 (20分)	グループ	1日目の振り返り
16:40 (20分)	メイン	1日目のまとめ、2日目の案内、アンケート記入
17:00		終了

※2017年6-7月に全国のがん相談支援拠点病院等 434施設を対象に実施、255施設が回答 (回答率 58.8%)

時間	ルーム	2日目プログラム (予定)
09:30 (5分)	メイン	オリエンテーション
09:35 (15分)	グループ	アイスブレイク/グループ内の役割分担
09:50 (40分)	グループ	演習④ 相談対応の質を評価してみましょう
10:30 (10分)	グループ	休憩
10:40 (40分)	メイン	講義5 「情報支援におけるアセスメントのポイント」
11:20 (40分)	個人/グループ	演習⑤ 情報支援のアセスメント：森山さんのヘルスリテラシーの観点から
12:00 (60分)	グループ	昼休み
13:00 (50分)	個人/グループ	演習⑤つづき 情報支援のアセスメント：がん専門相談員の観点から
13:50 (20分)	メイン	全体共有
14:10 (10分)	グループ	休憩
14:20 (20分)	メイン	講義6 「情報支援における意思決定、行動」
14:40 (25分)	個人/グループ	演習⑤つづき 情報支援のアセスメント：行動につなげる具体的な情報支援
15:05 (10分)	グループ	2日目の振り返り
15:15 (15分)	グループ	研修全体 (2日目) の振り返り
15:30 (20分)	メイン	全体討論/2日間のまとめ講義
15:50 (10分)	メイン	挨拶・諸連絡 (アンケート・修了証書等) ※参考：地域QA研修MAX6時間
16:00		終了